

国文学専攻創立四十周年
国文学会設立三十周年
記念論文集刊行にあたって

加美 宏

同志社大学文学部文化学科国文学専攻は、一九五四年（昭和二十九年）四月、同志社大学第二部の発足時に、夜間四年制の専攻として創設されたのが始まりである。当時文学部に属しておられた南波教授・故里井教授が、経済学部の小森教授、商学部の故安永教授、法学部の故波多野教授と計って、第一部文化学科に国文学専攻を設置すべく奔走されたが、学科の内部に、国文学は文化学科の理念にそぐわないという意見があったため、まず第二部に設置して地ならしをした後、翌一九五五年（昭和三十年）に、前記の五教授と、新たに土橋教授を迎えた陣容によって、第一部の国文学専攻発足にこぎつけられたのであった。この間の経緯については、南波先生の「国文学専攻の創設」（「同志社大学国文学会会報」21号、94・3）に詳述されている。

爾来、今年でちょうど四十年、卒業生も四千余名を数えるに至っている。この四十年、専攻は、いくつかのエポックを画しながら発展してきた。その第一は、専攻創設から八年目の一九六二年（昭和三十七年）四月から、学部専攻の上に、大学院修士課程が設置されたことである。これによって、より専門的な知識・伎倆を身につけた研究者・教育者を養成することができるようになり、やがてそれを基盤とした博士課程の増設（一九八六年）にもつながってゆくのである。大学院修了者は現在二百名に近い。

その第二は、一九六五年（昭和四十年）十一月に、同志社大学国文学会が設立されたことである。これによ

つて、教員・在学生・卒業生三者の結びつきが強まり、翌年には機関誌「同志社国文学」も創刊され、研究の成果を発表する場が確保されて、会員の研究活動が促進されることとなった。「同志社国文学」は年一―二冊の刊行を続け、本号で四十一号を数えるが、第三十号（88・3）には、記念として既刊号の分類総目録を掲げている。

今回、国文学専攻創立四十周年・国文学会設立三十周年を記念して、いくつかの記念事業を企画したのは、専攻・学会自らが、第三のエポックを画そうとする意志を表明したものであるということができようか。その趣意は、「同志社大学国文学会会報」21号に記したように、大学そのものの大きな転換点にあたって、専攻・学会創設の原点をふりかえり、今後の進むべき方向を見定めようとするところにあるといえよう。

記念事業の一環として企画された、この「記念論文集」は、まず、専攻・学会の生みの親ともいべき前記の諸先生方をはじめ、専攻・学会の育成・発表に力を尽された多くの方々に、感謝の意をこめて捧げようとするものであり、あわせて、国文学専攻に学び、関わってきた国文学会員の、研鑽の成果、現在の到達点を、広く世に問おうとするものである。

創設時の前記の諸先学は、個々の文学作品の緻密で深い読み・探究を進めながら、同時に日本の文学史研究に参画するという困難な課題に取り組み範を示されていると思うのであるが、この記念論文集に参集した現在のわれわれは、果してそれをうけつぎ発展させることができているかどうか、大方の御批判と御鞭撻をお願いしたいと思う。